

〈シンポジウム〉

開会挨拶

一橋大学副学長 西村 可明

皆さん、おはよう御座います！ 研究担当副学長の西村です。一橋大学を代表して一言開会のご挨拶を申し上げます。

本日は、私共の日中共同シンポジウムに、この様に沢山の方々においでいただき、誠に有り難うございます。ご出席の皆様は、心から御礼申し上げます。またこのシンポジウムには、中国を代表する最高峰の大学・研究機関である、精華大学および中国社会科学学院から、張再興精華大学副学長、王一程中国社会科学学院政治学研究所長をはじめ、錚々たる研究者にお出でいただいております。中国の研究者の方々には、一橋大学を代表して、心から歓迎の意を表します。

ところが、中国四川省において巨大地震が発生し、テレビ・新聞等の情報によりますと、被災者が一千万人規模に達するかも知れないと報道されております。大地震の恐ろしさを知っている私共日本人の胸を打つ、痛ましい出来事であります。ここにご出席の中国の方々も、さぞ心配されていることとご推察申し上げます。被災者の方々にお見舞い申し上げるとともに、亡くなられた方には心から哀悼の意を表します。本学北京事務所を通じて

問い合わせたところでは、四川大学自体の被災は小さかったようですが、本学学長がお見舞いの電報を差し上げたところです。一人でも多くの人命が救われることを祈るとともに、復旧が早急に進むことを願っております。

これは自然の力の恐ろしさを痛感させられた事件ですが、翻って社会を見てみますと、大地震のように急激ではありませんが、巨大な規模の地滑り現象が起っていると感じられます。これが格差問題です。このシンポジウムでは、「中国の格差、日本の格差」というテーマで、深刻化する構造的格差問題を正面から取り上げます。中国と日本が共通に直面している重要な社会問題について、経済学・政治学・社会学など様々な側面から検討し、その克服の方向を共同で模索することがその課題となっております。一橋大学、精華大学人文社会科学学院、中国社会科学院政治学研究所のこの三者は、社会科学における格段の高みに立つ知の集積の場として、この重要課題に取り組むべき良きパートナーであると思います。三つの組織の研究者が一堂に会して、日本の経験と中国の経験を検討の俎上に載せ、意見交換を行うことによって、新たな知見が生まれ、先端的、学際的研究が発展することを期待しております。

本学と精華大学及び社会科学学院との間では、これまでも地道な研究者の交流が行われて参りました。本日のシンポジウムは、その様な歴史の積み重ねの上に開かれるものであります。それと同時に、本日 of シンポジウムは、未来に向けて開かれたものだと思います。すなわち、これを機会に、三者の間での共同研究と学術交流が飛躍的に発展することを願わずにはおられません。我が国と中国には、ともに考え、ともに解決の道を探っていくべき問題が多数あると思います。格差の問題をはじめ環境問題など、社会科学の総力を挙げて取り組み、その研究成果が日本と中国、さらにはアジアの経済と社会の発展に貢献するような、そういうテーマが幾つも存在しております。このシンポジウムが、そうしたテーマに三者が共同で取り組むための、将来に向けての新たな出発点とな

るものであって欲しいと考えております。一橋大学といたしましても、そのようなに共同研究の発展を支援して行きたいと考えます。このシンポジウムには本学からも、渡辺雅男社会学研究科長をはじめ第一線の研究者が参加しており、ハイレベルの議論が展開されると確信している次第です。

最後になりますが、二日間にわたる大変インテンシブな議論を通じて、実り豊かな成果が得られることを願い、シンポジウムの成功を祈って、私の挨拶とさせていただきます。ご静聴有り難うございました。

開会挨拶

清華大学校務委員会副主任・副学長 張 再興

尊敬する一橋大学副学長、
諸先生方、学生の皆さん、
ご来場の皆様、

まず、この場を借りて清華大学の方々を代表して心より友好の挨拶を皆様に申し上げたいと思います。

今日、私たちはここで一橋大学、清華大学、中国社会科学院政治学研究所が共同企画した「中国の格差、日本の格差―格差社会をめぐる日中共同シンポジウム」を開催いたします。社会の発展における重要な問題について深く研究できるよう、中国と日本の社会学者は一堂に会しました。両国のそれぞれの分野の学者は、自国の実情に基づいて社会発展の中で発生する社会格差という現象を分析し、社会の公平正義における原則を研究し、問題の解決策を検討します。両国の学者の間での様々な角度からの研究は、必ずや社会発展の理論研究をよりいっそう促進し、両国の学者の相互理解と協力もよりいっそう深めることができると信じております。同時に、これから清華大学と一橋大学との相関する領域における長期的かつ安定した学術交流と協力関係においては、このシ

ンポジウムを通して基礎を打ち立てることができると考えております。

ご周知のとおり、中国はいままさに社会の変革と発展の重要な段階に差し掛かっております。一九七八年に改革開放政策が実施されて以来、今日までわずか三〇年しか経っておりません。その間、中国の社会主義現代化の建設によって、社会全体は天地を覆すような大きな変化が起こり、国民の生活水準は未曾有のレベルまで向上し、社会的富は急速に増加し、総合的な国力はめざましく成長いたしました。しかし、人民生活は全体的に相当のレベルに達したものの、収入格差の拡大という局面はまだ根本的に転換しておらず、各方面の利益を統一して再配分し、経済と社会の調和した発展という課題の解決は依然として困難を極めております。公平正義は社会の歴史的现象であります、社会主義体制を実施している中国においては社会の公平正義をないがしろすることは許さざるべきことであり、また解決しなければならぬ重大な社会問題であります。近年、中国政府が打ち出した「科学発展論」と「調和社会」という政治理念は、この重大な社会問題に対しての政策方針であります。今回のシンポジウムを通じて、私たちは清華大学の研究者として一橋大学の研究者と一緒にこの重大な社会問題をめぐって意見を交流し、私たちの学術研究を豊かにしたいと切実に期待しております。

一橋大学は長い歴史をもち、学術的伝統が重厚で素晴らしい大学であり、長年にわたって日本社会の各界に優れた人材を送り出してきています。清華大学も中国の著名な教育機関として、優良な伝統と重厚な文化的雰囲気を持っており、一世紀近くにわたり学界、政界、実業界に指導的な人材を多数送り出してきました。一橋、清華両大学の長期的かつ安定した学術交流と提携を通して、必ずや両校の研究および教育の両面に渡る発展を力強く促進できると同時に、中日両国間の文化と学術の交流においても積極的な貢献をなすことができると信じております。この機会を借りて、私は清華大学を代表して一橋大学に最高の祝福を送らせていただきたいと思います。

そしてシンポジウムのご成功を心よりお祈りいたします。
ご清聴ありがとうございました。

（原文中国語・日本語翻訳 李全鵬）

開会挨拶

中国社会科学院政治学研究所長 王 一程

尊敬する一橋大学副学長、

諸先生方、学生のみなさん、

ご来場のみなさん、

まず、中国社会科学院政治学研究所を代表して、日本の一橋大学、中国の清華大学、中国社会科学院政治学研究所が共同開催する今回の学術シンポジウムに最大限の祝意を表したいと思えます。同時に、今回のシンポジウムの開催に向けて格別のご尽力をいただいた一橋大学に対しても深く感謝いたします。また、ご来場の研究者および日本のみなさんに心よりのご挨拶を申し上げます。

ご周知のとおり、中国の改革開放は世界が注目する大きな成果を達成いたしました。この三〇年間、生産力は急速に発展し、国民の生活レベルも絶えず向上を続けてまいりました。しかし、中国の社会発展において、無視することのできぬ深刻な矛盾や問題も数多く存在しております。なかでも、もつとも注目を集めているのが社会の貧富の格差の問題です。発展のなかでともに豊かになること、国民全体が改革と発展の成果を等しく享受する

こと、それこそが、中国の党・政府および国民が目とする喫緊の課題であります。そのため、中国政府は「人を中心とする」科学発展観を提起しました。すなわち、国民が求める発展とは、単一の経済成長でもなく、経済統計上の数字でもなく、現実の生活のなかで人々が具体的に感じる、経済、政治、文化、社会、自然環境など各方面にわたる良好かつ全面的、調和のとれた持続可能な発展でなければならず、人間の全面的発展の欲求を満たすことに役立つような発展でなければなりません。しかし、対外開放と市場経済の発展という社会的状況の下で、貧富の格差の拡大はそれなりの歴史的必然性と主観的かつ客観的、多方面にわたる原因を背景にして存在しており、容易に解決できる問題でないこともまた事実です。

国際的に見ても、過去三〇年にわたり、貧富の格差の拡大は世界各国がともに直面している社会問題でもあります。今回のシンポジウムでは、われわれ両国の学者が一堂に会し、中日両国が社会発展のなかでも直面している貧富格差の問題をいかに解決するかを検討することになりました。それは、両国の学者が貧富の格差の解消や、社会公平と正義の実現にかんする研究をよりいっそう深める機会となることでしょう。

今回のシンポジウムは、われわれ両国の学者および學術世界における交流、理解と提携のよりいっそうの促進、そして、われわれの今後の長期的連携の基礎を約束するものです。一橋大学は、悠久の歴史と素晴らしい学問的伝統を誇り、また、きわめて優秀な学者を擁し、これまで日本社会に幾多の優秀な人材を送り出してきました。中国社会科学学院と一橋大学は、すでに正式の学术交流協定を結んでおります。中国社会科学学院政治学研究所は、中国社会科学学院における政治学研究に専門的に携わる學術機関であり、中国政治学界における重要な研究基地と学术交流センターでもあります。過去二〇年にわたり、われわれは、中国政治学科の基本理論の構築に努め、国内外における重要な現実問題の政治学研究を積極的に展開し、国家の政治建設に際し政策決定に資する科学的研

究成果を提供してきました。それとともに、われわれは、政治学界における優秀な人材の育成と成長を重視し、国内外の大学および研究機関との交流と提携にも力を入れてきております。一橋大学との交流と提携を通じて、中日両国間の文化と学術の交流の促進に積極的な貢献をなすことを期待しております。

最後に、シンポジウムの成功を心より祈念して、挨拶いたします。

ご静聴、有難うございました。

（原文中国語・日本語翻訳 尤維芬）